

昭和六二年（ネ）第三九六号

証拠の申出

控訴人 ローレンス・レパタ
被控訴人 国

昭和六二年九月九日

右控訴人訴訟代理人

弁護士 秋山 幹 男

同 鈴木 五十三

同 喜田村 洋 一

同 三宅 弘

同 山岸 和彦

東京高等裁判所

第一七民事部 御中

第一 人証の表示

1 新宿区高田馬場

証人

高野陽太郎

早稲田大学文学部専任講師、前ヴァージニア大
学専任講師（認知心理学）（呼出 六〇分）

2 港区赤坂

証人

栗田勝広

時事評論家・国政監視委員会代表委員

（呼出 四〇分）

3 中野区弥生

証人

清水道子

フリーライター

（呼出 三〇分）

第二 尋問事項

別紙のとおり

尋 問 事 項

(証人 高野 陽太郎)

- 1 証人の経歴、専門。認知心理学とは何か。
- 2 人の認識行為と記憶との関係、及び認識の再生と記憶との関係。
- 3 人の事実認識におけるメモの重要性について、認知心理学ではどのような考えられているか。この点に関する実験的研究について。
- 4 その他関連事項。

尋 問 事 項

(証人 栗田勝広)

- 1 証人の経歴。時事評論家としての活動歴。国政監視委員会の活動内容。
- 2 東京地方裁判所刑事第二〇部係属の被告人加藤昌に対する所得税法違反被告事件の審理を傍聴したことがあるか。その動機・目的、傍聴の状況。
- 3 右傍聴等をもとに著書、評論等を執筆したことがあるか。
- 4 右傍聴において審理内容をメモすることができたか。法廷内でメモをとれなかったことにより支障が生じたか。
- 5 その他関連事項。

尋 問 事 項

(証人 清水道子)

- 1 証人の経歴。「ペントハウス」等の雑誌の記者として仕事をしたことがあるか。
- 2 雑誌等の記者として取材のため刑事事件等の法廷を傍聴したことがあるか。どのような事件で、どのような目的で傍聴したか。メモをとることができたか。
- 3 東京地方裁判所刑事第二〇部係属の被告人加藤嘉子に対する所得税法違反被告事件の法廷を傍聴したことがあるか。その目的、傍聴の状況。
- 4 右事件につきメモの許可を申請したことがあるか。その結果。
- 5 法廷内でメモが許されないことにより雑誌等記者としての仕事にどのような支障が生じたか。
- 6 司法記者クラブ所属会社の記者にメモが許されていることを知っているか。右記者らにのみが法廷でメモを許されていることに合理的理由があるか。
- 7 その他関連事項。